

令和2年度第1回御宿町生涯活躍のまち推進協議会 会議録 (令和2年11月5日実施)
開会

- 1 委員長挨拶
- 2 町長挨拶
- 3 議題

- 1) 地域再生計画『生涯活躍のまち・おんじゅく』の令和元年度実績
- 2) 令和2年度地方創生推進交付金実施計画の内容及び実施状況

議題-1) 地域再生計画『生涯活躍のまち・おんじゅく』の令和元年度実績

保健福祉課長 説明
産業観光課長 説明
教育課長 説明
企画財政課長 説明

委員長 ただいま事務局から議題1についてそれぞれ担当課から説明がありました。この質問を受ける前に、委員からコメントをいただいています。それについて事務局の方から説明をしていただけますか。

企財課 この会議にあたりまして日程調整を行っていたんですが、どうしてもこちらに来られないということでしたので、資料を送っていただいたら、それを見させていただいて、コメントをいただけるというお話がありましたので、その結果、こちらのほうにコメントをいただいております。

委員長 それでは、皆さんの質問が終わってからお話をお願いします。

委員 レジュメの2ページなんですけれども、移住定住フェアが東京、それから神奈川で4回ほど行われているんですけれども、町からどういう方がこのフェアに行かれたんでしょうか。その辺をお聞きしたいと思います。

企財課長 移住相談のこういったフェアへは、企画財政課職員で出席をいたしまして、相談者の相談を受けました。また、移住定住の担当をしていた今いませんけれども、地域おこし協力隊とも一緒に参加しております。

委員 それで、その時に町から何か、いろいろパンフレットとか何かそういったものをお持ちになるんでしょうか。

企財課長 移住定住として、観光とかいろいろな分野のパンフレットを集めておりまして、それをセットとしてお渡ししております。中身ですか。

委員 パンフレットを持って行って見せているかどうか。

企財課長 はい、お見せしています。

委員 実は、私ちょっと群馬県のほうに行っていたんですけれども、道の駅に群馬県桐生市の黒保根町というんですか、なんかすごい移住定住促進のすばらしいパンフレットがあったんです。それを持ってきたんですが、やはりただ単に御宿町どうですかというんじゃなくて、やはり教育とか子育てとか就労とか暮らしとか、市営の分譲地を用意してあると。家を建てたら最大2,000,000円の補助が出ますよ、そういうインセンティブを移住者には用意してるんです。だから、そういったことも大切なのかなと思うんですが、その辺の考えは町長

どうなんでしょうか。

町長

おっしゃる通り、移住定住の課題というのは今1番大きな課題であります。人口減少が進む中で、また少子高齢化が進む中で、各市町が人口減少が進んで、やはり町の勢いも減じますので、そういう意味では、これからの大きな課題、これまでも課題としてやってきて、今いろんな発表がございましたが、もっと切実に考えていかなくてはいけないんじゃないかと思っております。KPIならKPIを定めて、しっかり達成すると。あるがままにしないということだと思います。そういう中で、これは200万円でおっしゃいましたね。それは国の関係から出ているような内容だと思いますけど、それに合わせた町の政策がそういう土地とかそういう提示する内容だと思いますけど、御宿町も町有地がございましたので、ぜひ1人例えば若者が移住してきた場合はどれだけの内容になるのか試算といいますか、そういうことを考えますと、ある程度そういった町の財産を活用しながら、定住化を進めていくというのは非常に重要だと思いますので、十分に検討していかなければならないと思います。

委員
委員

ぜひ検討をお願いいたします。

議題1の「地域再生計画、生涯活躍のまち・おんじゅく」。ここの1番最初のところにですね、「地域再生計画の目標」とか「具体的には」とかいうところがあるんですが、今KPIのところを中心になっていますので、これはこれで評価しながら速報、これから本文に向けて対策を打っていかなければいかんということでしょうが、その前に、ここにも「再生計画の目標」のところ、人口減少と高齢化、経済の活性化と、この3つが並んでいるんですが、今地方自治体に求められるものの3つだと思うんですね。その中で、ここにも「具体的には」というところに、「医療機関や福祉・介護事業者と連携して」とか、あるいは、「御宿町を終の棲家とするための継続的ケアを受けることができる体制の整備」とかですね、「地域住民と移住者が安心して暮らせるまちづくり、自立した持続可能なまちづくりを進める」と、これが大きな目標にあるし、具体的にこれをどうするかという事についても、ちょっと具体的な対策を打っていないと、今ここにありますKPIで反省しながら、次の体制を打っていくということだろうと思うんですが、問題はもうちょっと計画の目標とか、具体的に謳ってあればですね、ここのところ具体的な対策が打てないかなど。でないと、御宿町が抱えている人口減少問題、それから高齢者対策の問題、若者の移住定住の問題、こういうものにですね、効果が薄いんじゃないかなど。もうちょっと具体的な、ポジティブな計画を立てていかないと、この問題は前に進まないんじゃないかなどと思いますが、いかがでしょうか。それに対する今後の対策について考えているかどうか。

企財課長

再生計画につきましては、5年間の計画ということで、この形で国の承認をされている計画でございまして、これに基づいて今年3年目ということで、事業を展開してきております。一旦3年を振り返って、またKPIも含めて、推進交付金のほうも最終年度にもなりますので、見直しというか、検討はかけていく予定ではございますが、ベースとしては大きな6つの目標というか、計画についてはこれを引き継ぎながら、細かい事業の取り組みについては、見直しはかけていきたいと思っております。

委員

ただ問題はね、せっかくCCRC、これ町長の諮問機関ですから、我々はこ

ここで意見を言って答申するわけですから、ぜひそれに今私が申し上げたことをもう1歩前進、踏み込んでほしいということをお願いしたいと思います。

副委員長

CCRCの協議会が、今年度で一応終了ですかね、令和2年度、当初の計画だと。それで今日新たに委嘱状をいただいて、平成4年3月31日までということで委嘱をいただいたんですが、今委員からもお話がありましたように、まとめの年なので、いろいろ具体的に何がなされて、これからはどうするのか。あと2年間委嘱があるんで、そのあたりのことも、これからお話したださるのかもしれないかもしれませんが、このKPIの数字を見てます限りは、目標を達成していることが多いんですよ。移住相談者の実績も達成してますし。でもこれ見てみると平成30年度の数は10、令和元年は47組で59人。町は非常に積極的に取り組まれたと思うんですが、やはりもう少しアピールが欲しいかな。委員もおっしゃったように、御宿の魅力っていうものをもっと出してもらえないかなと思います。不動産屋さんの話なので、どこまでか信憑性がわからないんですけど、コロナの件で非常に移住希望が増えているんですって今。なので御宿町感染者0、そして豊かな自然、そういうところをもっとアピールしていただきたいと思います。それから委員がおっしゃいましたように、御宿台は特にそうなんですけど、終の棲家にならなくなってきました。どんどん施設入所が増えてるんです。それも御宿町には施設もないので、非常に具合が悪くなった方が多いんです。CCRCの目標の大きなところ、持続した暮らしができるっていうのは、とても危うくなってきました。そこで今日の会議でも先生はいらっしゃらないんですよ。日程調整の時にどうして先生が参加できない日なのか。今健康診断でしょう。だからそのあたりも、もう少し調整をしていただきたいなと思います。それと、交流拠点についてですが、寄茶場は三育学院が、ふれあいの家は自治会、白鳥丸のところは地域おこし協力隊の方が頑張って事業をしていらっしゃいました。これからの事はCCRCが終わったら、ふれあいの家はどうなるのか。白鳥丸は目的が違って来たんですか。そのあたりと、かぐやさんの利用方法を教えていただきたいと思います。

企財課長

交流拠点の浜の店舗白鳥丸さんについては、最初は福祉の方で整備をしまして、そうした活動の拠点で使う予定でございましたが、その後新町のかぐやさんの空き店舗が借りれるということになりまして、そちらのほうに保健福祉の部門の拠点が動きましたので、その後白鳥丸さんのほうには、産業観光課の方の事業としての拠点というふうな位置づけが変わってございます。実際先ほど課長からの話ありました通り、浜の店舗のほうは整備が昨年度で終わったんですけれども、コロナの関係等もございまして、まだ事業としてはスタートしておりませんが、かぐやさんにつきましては、保健福祉課の方で、秋ぐらいから地域おこし協力隊が中心となって、活動のほうはスタートしている状況でございます。

副委員長

かぐやさんについてもうちょっと詳しく踏み込んでお聞きしたいんですが、この前包括と三育学院が協働で、手洗い講習会というのがありました。それで参加してきたんですけれども、ちょっとまだ知られていないというか、参加者が少なかったんです。それでそこは非常に場所がいいですよ。駐車場がないけれども、歩いて行ける場所なので、地域住民が自分たちの寄り場所として使えるような仕組みは、考えていらっしゃいませんか。もちろん申し込んで、

責任者がちゃんとして、鍵を借りてという事ですが、そういう利用規則みたいなものを作って、貸し出すという考えはないでしょうか

保福課長

かぐやさんでございますが、委員さんがおっしゃいました通り、多くの方に利用していただきたいというような施設、最初のコンセプトが、そういうコンセプトでございます。ただ先ほどからお話ししてมาす通り、新型コロナウイルス感染症の関係で、オープンができないと。結局集まる方の主な層が高齢者ということで、病気や高齢者の方、既往症がある方は重度化しやすいということで、なかなかオープンに利用について、皆さんにお伝えができていない状況になっております。ただコロナも落ち着いてきたのかなというところなんですけど、これからインフルエンザの季節になりますので、やはりここは警戒しなければいけないということなので、理念といたしましては、貸し出し等も考えたいと思いますし、今こちらに委員として参加してらっしゃいます特別養護老人ホームの外房さんの地域貢献事業として、会場を借りられないかというお話もでございます。大変良い話ですので、進めたいと思っております。また外房さんにつきましては、ノウハウもありますし、人的、物的に資源もございますので、ここでお力をお借りしたいという事と、三育学院大学の活動の拠点とできないかというようなお話をいただいております。ただ運営をどれくらいの頻度で、やすらぎの家などは毎週土曜日しか開けていないということで、かぐやさんがどれくらいの頻度で開けられるのかというのは、これからボランティアを募りまして、運営をしていきたいと思っております。冒頭申し上げました通り、あまりオープンに募集ができないので、社会福祉協議会のボランティア登録のある方々の中から、有志を募りまして、最初は小さいところからはじめて、軌道に乗ったら、またコロナが落ち着いたら、広く皆さんに活用していただけたらと考えております。

委員

何人かの委員さんから積極的にとか、もう少し踏み込んでとかというお声が出たかなと思うんですけども、私も資料と各課長さんからのお話を伺うと、少し感じました。なんでかなあと思ったんですけども、1つにはコロナでなかなか予定していた事業ができなかったというところがあるかと思うんですけども、一方でコロナが深刻化する前に、一定の取り組みがされて、P D C Aじゃないですけども、やってみて、K P I 上は数字はそこそこ達成かなっていうのはあるんですけども、やはり本当はこういう風になったらいいなと思ってたんだけど、どうもこの部分が少し苦戦してたとか、もっと上を目指したいみたいな。でもちょっとここは工夫が必要だとか、今後の課題とか、もっとという苦悩とか、もっとやれるぞというような上を狙っていきこうというような。で、そのためにはどうしたらいいだろうっていう投げかけを、例えば我々にもそうですし、関係して一緒に事業をやられている方達とか、そういう方たちと共有できるとですね、だったらこういうことができるんじゃないとか、この辺はこうの方がいいんじゃないかとかという意見が出やすかったり、もっと活動もそういう意見のやりとり、思いの共有みたいなのが進んでいくと、これからまたこういった活動が活発になって良い結果が出てくるんじゃないかなと思います。委員さんのお話がありましたけれども、移住定住促進という部分では間違いなくチャンスというか、もちろんチャンスなんですけれども、弱肉強食の同じような状況で、今がチャンスだぞと思っている他

の小さなこういう町、自然豊かな町との争いが、もう始まっていると思うんですよね。そこでやっぱり、倍々じゃないですけども、ぜひいろいろな選択肢がある中で、ぜひ御宿へということ、私を含めてみんなで行ってきたいなというふうに思ってるんですが、そのためには、やっぱりこの移住相談、合計で170人ですか、これ目標か。70人ぐらいの方の相談を受けて、そのやりとりの中からそのヒントっていうのが出てくると思うんですよね。もっと言えばもう少し踏み込むと、今のやり方では今の募集のかけ方で、今の移住相談にきてくださっている方から、いわゆる情報はそういう今来ている人たちである多分ジャンルが偏っていると思うんですよね。今の呼びかけに対して来てくれている人たち。でもそうでない人たちも、実は予備軍としていらっしゃっていて、その方たちがもしかしたら違う呼びかけをすれば来てもらえるかもしれないっていうことを考えていくと、やっぱりたくさんテーマがある中でも、移住定住促進相談会をやる、いろんなイベントに、フェアとかに足を運んでいただいて、コツコツ活動されている中に、いろんなヒントが隠されているんじゃないのかなというふうに、お話を伺っていて思いました。私現場でどういう雰囲気やどんな感じでやられているのかというの、全然わからない話をしちゃってるんですけども、きっと他にも同じような町がブースを出して、来ている方たちが、どこかを選んでくるのかそれとも順番に順繰りに回って行って、大体みんな待っていればテーブルに来てくれるのか、その辺はどうなんですか。それともこういったフェアでは、既に奪い合いっていうか、PR合戦が繰り広げられているのか。その辺ちょっと話を伺ってもいいでしょうか。

企財課長
企財課

すいません私昨年いなくてちょっと…。

移住定住フェアにつきましては、千葉県がブースを用意していただいて、そこで市町村を募って、手を上げていくような形で、予算が限られていまして、1回やると、10万円とか30万円とかブースを借りるだけでかかってしまうので、声がかかったものについては、優先的にうちに出してくれということ、お願いしながら、その辺は積極的に参加してお話をさせていただいたところがあります。あと積極的にやるということで、体験ツアー等で来ていただいて、実際に体験していただいて、御宿町の良さを知ってもらおうという意味では、やってたんですけども、去年は悪天候で、今年はコロナの影響でということで、できていないんですけども、後は関係人口がこれからカギになってくるのかなというふうに感じています。ですので、例えば観光とか、伊勢えび祭りとか、そういったところで来ていただいて、その中で、御宿町を知っていただいて、移住につながるところもできればいいなというふうに考えています。

委員長

交流事業、移住交流促進事業の中で、浜の元大谷ハウスさんをお借りして、工事を進めて、この事業を推進するためにやってこられて、立派に改修されて、お試し事業としての施設を作られた。しかし話によると、まだ利用してないんです。それには許可がいるんだというような話を聞いたんですけど、この写真12ページの写真に載っているのは、元を知っている私からしてみれば、すごく立派に改装されて、ここで一晩、二晩過ごしたらいいなあ。もっとも位置的には、海なんかもうすぐ目の前だし、10メートル歩けば海ですから。そういう

ような環境、こういうふうですよと、このようなことが御宿に来ると体験できますよというようなことで、これはすぐ予約でいっぱいになっちゃうだろうなと思っていたところ、まだ1歩も進んでいないと。ここから先進んでないという事は、町のほうのいろいろな手続き等が遅れているのではないかということをごちゃごちゃと聞いたんですけどね。これは一体どうなっちゃってるんのかということなんです、要するに。コロナだから来る人がいないと言ってもね、これだけで出来ちゃってるんですよ。予算も使ってるんですよ。それなのに、こういうことが最終的な町の許可が出てないっていう事自体が、どうなってるのかなというふうに思っているんですけど、どうなんですかね。町の許可がなくて、どなたが手を挙げてくれさえすれば、その人をお願いするんだということなのか、あるいは町そのものが、この事業の窓口として、一切合切をやっていくんだということなのか。白鳥丸の事もそうだと思うんですよ。福祉から観光に移って、じゃあ観光が特産品開発のために、扉も直したりしてきれいにし、じゃあ一体何をやっているの。コロナコロナってね、コロナのせいにはばかりしていたんじゃない。そういう中でも、その対策をしながらやっているということが大事であって、色々と隣の勝浦だって、市場に出ない魚を利用して、それを加工して、商品として今朝一で人気ですよというように一所懸命やってる。まして、そういうところでそういう設備の整った中でそれを使ってやらないっていう事はないと思うので、やはりお願いしたいなあ。先に進めてもらいたいなあ。そういうことによって定住、交流人口の増加につながっていると思うんですけどね。その辺についてどうなんですかね。

町長

ご指摘ありがとうございます。今コロナということで委員長からもございましたが、今国内のお試し居住の場所においては大体3分の2以上が休憩しています、コロナの関係で。できるだけ早く開催したいんですが、お試し居住として活用したいと。今ご指摘いただきましたように、施設が立派にできました。景勝も良いです。もう一つはコーディネーターをつけたい。要するに町の魅力とかそういうことを案内する人をつけて、ぜひ5人来たら1人2人は必ず定住するというような確実性というか、見込みを持っていきたいな。すばらしい形でお試し居住をやりたいと思っています。コロナも徐々に沈静化する傾向にあると思いますので、そろそろ開始したいな。そういう体制をまず作らなきゃいけないかな。ご意見いただきましてありがとうございます。

委員長

ぜひそれを進めてもらいたいと思います。幸い御宿町はまだコロナ発生ゼロですよ。私はゼロの底辺には、非常に町民が意識を持っているということで移さない、移らない、そういうような非常に個々に町民が思っていると、そういう印象を持っている。そういう環境の中で町も積極的に政策を進めてもらって、せっかく立派にできているものが利用されないっていうのは非常に残念だと思いますよ。ですからぜひそういう今町長言いましたけれども、早くそういう人を見つけてですね、お願いして、管理運営をやらせるというふうにしていきたいなと思います。それと、先ほど委員からご説明がありましたけれど、人口を増やすということが難しいと、町長が何かの会議で言って、減らさないように努力するほうが大事なんだというようなお話をされたということをごちゃごちゃと聞いたんですけど、まさに大事な事だと思っております。減らさないこと、減らさないことで、という事は増やすことにもつながってる訳ですよ。

何人減っているのかというと、若者が教育を受けて高校、大学で故郷に戻って自分が生まれた故郷で仕事をしたいという、その仕事がないんですよ。ですからそういう仕事、教育を受けた人が地元で仕事ができるようなことをやるという事は、要するに福祉の政策もそうだろうし、国の政策もそうだろうし、全てがそうだろうと思うんですけど、まず産業が魅力ある産業を推進していくと。ですから、地域おこしとして私は特産品の開発を、それぞれな場所で、何人かが集まって、作って、御宿これだっというものが世に出て、許可されれば、それをじゃあ本格的に生産しようとする人たちがいると思うんですよ。で、そこで生産する。すると1人じゃ間に合わない、2人3人とそこで雇用が生まれて経済が活性化すると。そういうシステム、このCCRC事業は1番のベースになると思うんで、ここに書いてある計画を本当に3年経ってききましたので、これから先の4年5年について、考えてやっているということが大事、大事っていうか、それが長くいけないっていうところが私は御宿町はきついんじゃないかって思うんですよ。その辺について十分計画を練り直して、きちっと進めてもらいたいと思いますけどね。

委員

冒頭にお話のあった移住の関係で、不動産がかなり動いてきているっていう話は、こないだもさせていただいたんですけども、やはり、当店のほうでもネットを通じてでの住宅ローンの相談とかっていうのがあって、それが逆に都内に住んでいる人が、御宿の物件で買いたいっていう住宅ローンの申し込みが数件、以前はほとんど無かったですけれど、それが月に1件とか2件くらいの相談というのが、成約にはなっていないですけども、そういうものが来ているというのが実情でございます。リモートの関係で、今までは快速が止まる一宮までが、すごい人気だったようなんですけども、それが御宿のほうまで、やっぱりサーフィンとか釣りとか、そういった方々が興味を持っているというものの表れかなと思っております。私も浜のマンションにウィークデーずっと住んでおりますので、自炊して御宿でお金を落として商品券も買わせていただいて、もう少しで消化しちゃうんですけど、お金も御宿で落としていただいているものですから、そういった意味でもいい環境が整っている町だと私非常に思っているんで、また今後お手伝いできたらなあというふうに思っております。また、そういう情報がありましたら、ご紹介のほうをさせていただきたいと思っております。

委員長

質問がなければ、先ほど申し上げた委員のコメントを読み上げていただいて、皆さんに説明したいと思っております。

企財課

では、読まさせていただきます。

委員コメント

公務のため本会議への出席が叶いません。誠に恐縮ですが、以下のとおりコメントに代えさせていただきます。

1. 実績について

・新型コロナ感染拡大の影響を受け、実施するうえで様々なご苦労があったこととお察しします。感染拡大防止のため、事業の規模縮小、延期や中止は致し方ないと思われました。

・そのような中で、「寄茶場」や「ふれあいの家」では活動拠点が整備され、交流のしくみづくりが進められた点はすばらしいと思っております。

2. 「R元年度評価」と「R2年度計画」に関する委員会開催時期について

R 元年度評価と R2 年度計画に関する本会議が、なぜこの時期に開催されるのか少々疑問に思いました。交付金最終年となる R2 年度はすでに半年経過しています。最終年度の活動をよりよいものにするため、また交付金終了後も町独自で活動を継続していくために、本会議をもう少し早く開催できるとよかったのではないかと思います。今回の開催時期について、貴町の意図がございましたら教えてください。

企財課長

今回の会議につきましては、先ほど委員からもお話がありましたが、日程の調整が委員の都合も含めまして、きちんと出来ておりませんで、令和元年度の評価につきましても、例年ですと 9 月頃の開催ということでございましたが、この時期になってしまったことは、まずはお詫び申し上げます。4 月以降コロナということで、町の方針としてなかなか会議等顔をそろえての会議というのが、開催を控えているということがございまして、併せて第 1 回目の協議会につきましては、今年度の事業の中間報告をさせていただく機会でもございました。先ほど各課長から説明がありましたが、なかなか事業がほぼ中止にしている状況で、ご報告をできるような事業実績がなかったということで、ここにきまして、教育プログラムが 7 月中旬から、かぐやさんも 9 月くらいからスタートして動き出しましたので、併せて今回一緒に開催という形をとらせていただきました。確かにこれは一緒にやる会議ではございませんので、今後につきましては、きちんと日程の調整、あとほかの課の行事等を含めて、委員の都合を確認しながら、開催をしたいと考えております。

委員コメント

3. R2 年度の実施計画・実績について

・R2 年度実施計画の具体策についてお聞きしたいと思います。最終年度を迎え、R3 年度以降につながる具体策の立案が必要かと思いましたが、すでに各関連部署や小委員会で検討済みと思いますが、ぜひお知らせいただきたいと思えます。

企財課長

令和 2 年度の中間報告も含めての計画・実績についてこのあとの各課長から説明をさせていただいて、それについてお話をさせていただく予定になっていますが、現時点で半分きまして、先ほどからお話にありますように交付金としては今年度が最終年度になりますので、来年度の計画につきましては、事業内容も再度見直ししながら、本当に必要な事業をきちんと継続していけるような、一般財源を使っていくということになりますので、その辺も調整を図りながら、これでしりつぼみにならないように、持続可能な C C R C 事業となるように、これから残り半年ありませんが、関係各課協議いたしまして、進めていきたいと思っています。現時点ではまだ、何も決まっている状況にございません。

委員コメント

・資料にも記載されていまして、住民が相互に支えあうしくみづくり、人材育成には時間がかかります。コロナ禍において限界もあろうかと思いますが、今年度の取り組みについてご説明いただけますと幸いです。

企財課長

3 年度の計画はまだ協議ができておりませんが、この実施計画の大きな目標というのは、地域の人たちが担い手となっていただいて、ずっと継続してやっていただくというところが大きな部分でありまして、しかもそれが委員おっしゃるとおりなかなか難しい大きな課題になっています。今回御宿台のふ

れあいの家の方たちが自発的に運営を始めていただいて、そうしたような取組みがだんだん広がっていったのが、そして自主的に事業を運営して、自立して活動していただけたというのが、大きな目標になっておりますので、そこに向かって進めていきたいと思っておりますが、なかなか今中心になっていただいている方たちも、世代的にも高齢な世代の方が多くて、もう少し違った世代もうまく協働しながら進んでいけるような取組みについて、今後検討していきたいと思っております。

保福課長

かぐやにおける交流サロンの今後について、先ほど委員のご質問にお答えしましたとおり、運営ボランティアとして今後募りまして、これらの皆さんが中心となって、地域サロンを軸に支え合いのシステムを構築していきたいと考えております。ただ、懸念材料と申しますか、来年4月に改正高齢者雇用安定法によりまして、70歳までの就業機会の確保が企業に努力義務化されるということでございます。そうしますと今の企画財政課長が申し上げましたとおり、若い人材がまだ就業しているということになりまして、こちらのほうに回っていただける人がいなくなってしまうのかなという懸念もございます。とはいいいながらも、寿命も延びていますし、生き甲斐作りということで、就業することは決して悪いことではないので、その辺はこれから4月の施行でございまして、直ちにすべての企業が70歳まで働くということではないので、その辺は視野に入れながら、人材の発掘・育成に努めていきたと考えております。

委員コメント

・CCRCでは「交流サロン利用者数」の実績が求められると思いますが、交流サロンを企画・運営するために育成した「人材の人数」や「組織の数」も別途実績としてあげ評価してはいかがでしょうか。

保福課長

「人材の人数や組織の数は実績として」ということでございます。人材の人数というのは、人材の定義というのが、どのような定義にするかということもございまして、少し考えなければいけないところでございます。また、組織の数、これは結果的に組織がいくつ発足できたかということは、結果的には出ると思うんですが、なかなか事前に計画値として、じゃ何年にいくつ拠点を設けるといというのは、小さい町で人材も限られている中で、計画に落とし込んでいくというのは、ちょっと難しいのかなと思いますので、この辺については、引き続き検討してまいりたいと考えております。

委員コメント

4. 今後の活動について

・地域包括ケアシステムは、各自治体の特徴やニーズに合わせて構築していくことになっていきます。貴町における第1のニーズは、医療提供および介護サービスの充実が考えられ、介護関係事業者の誘致に力を入れて取り組んでおられます。

・R元年度は千葉大学医学部の調査が開始されました。今後この結果から、住民自身の健康維持・増進、ひいては介護予防の充実につながっていくと思います。

・さらに、貴町のニーズとして、住民同士の支えあい（互助）を活発化させることが課題と考えられます。住民が相互に助け合うしくみづくりや人材育成を、数年間にわたって段階的に計画/評価していくと、効果的に進められるのではないかと思います。また、コンパクトな町のため、他の事業（た

例えば、地域ボランティア活動支援事業、等々)とタイアップを図っていく工夫なども検討されてはいかがでしょうか。

保福課長 この件につきましては、どのような取組みが可能であるか今後検討してまいりたいと考えております。

委員コメント ・今年度すでに様々な計画や工夫を検討され、手ごたえを感じていらっしゃると思いますので、それらをぜひ推進していただきたいと考えております。今後の活動の発展を祈念しています。ありがとうございました。

委員長 委員からコメントと質問ということで、回答していただきました。感ずるところがありましたけれども、まさにこういう形で来年度からは補助金もなくなるということで、貴重な一般財源からの事業費用はかかるわけですので、より一層気を引き締めてこの事業を進めていっていただきたいなと私も思っております。ほかにご質問がなければ、次の会議もあるそうなので、これをもって本日の協議会を閉会とさせていただきます。長時間にわたり慎重審議ありがとうございました。